

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0272600289		
法人名	社会福祉法人八千代会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地 (電話番号)	〒039-5201 青森県むつ市川内町字獅子畑128番地4 (電話) 0175-42-3103		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年8月24日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 1月 4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,400 円	その他の経費(月額)	9,500 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一部事務組合下北医療センター国民健康保険川内病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より湯の川温泉方面へ向かう山間部に位置し、前面には川内川が、裏手には於法岳を配した自然豊かな環境にあり、ホーム内から四季折々の風景を楽しむことができる。特別養護老人ホームの併設施設としてグループホームを設置。母体である特別養護老人ホームせせらぎ荘は平成元年より、地元の人でも利用できる温泉場として馴染みとなっている。また、敷地内に湧き水があり訪れる地域の方との交流の場となっている。施設内は全て廊下で繋がり、デイサービスやショート利用者が自由に行き来できる開放された空間となっている。施設全体での園内研修、勉強会を定期的に行い、様々な取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題は特になし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義を理解し、毎月のスタッフ会議で報告・検討を行い改善に向け取り組んでいる。また、評価結果が外部の方へも分かるよう掲示している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回の割合で開催し、家族、他機関と問題解決のためそれぞれの意見を受けながらサービスの向上に向け取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>意見箱を設置し、多くの意見を吸い上げられるよう工夫している。また、家族の面会時に情報を得たり、近況報告を行ったりしながら意見や要望を取り入れるよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の住民から収穫された野菜を頂いたり、学校行事や地域の祭りへの参加、ボランティアの受け入れ、湧き水や温泉を利用する方々との触れ合いを通して多くの交流がある。また、避難訓練の時には近隣の集落や消防署などの協力を得て行うことができている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はないが、全国認知症グループホーム協会の倫理綱領を理念として設定している。		現在、全国認知症グループホーム協会の倫理綱領を取り入れ理念としているが、今後は事業所で大切にしていることや特徴を活かし、地域密着を実現できるようなグループホーム独自の理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やケアの場面で、事業所や管理者の考えを繰り返し伝え、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の方々から収穫された野菜を頂いたり、学校行事への招待やボランティアの受け入れ等で交流を図っている。また、敷地内に湧き水があり、そこを開放しているため訪れる方との触れ合いの場となっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、毎月のスタッフ会議で報告・検討し、改善に向け職員全員で取り組んでいる。また、外部の方へも評価結果が分かるように、玄関に掲示されている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で開催されている。参加者は家族、評議員、市職員、グループホーム職員で構成されている。それぞれの意見をもとにサービスの向上に取り組んでいる。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題解決のための相談をその都度行い、助言や支援をいただく関係が作られている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年間の研修予定に権利擁護に関するテーマを組み入れ、職員の理解を深めている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、職員の理解を深めている。また、虐待事件等のニュースがあった場合は、その日の申し送り職員へ再度、虐待防止の注意を促し徹底している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書・契約書等の書面を用いて家族に十分理解して頂けるよう説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の金銭管理の報告書を郵送すると共に近況の報告、年4回の広報誌を送付している。また、面会時もケース記録を基に日々の状況を伝えている。状態変化時には、その都度家族へ連絡し意向を確認している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に意見や要望を確認している。また、玄関に意見箱を設置し多くの意見を吸い上げられるように工夫している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はあるが、ほとんどの利用者が、入居前に併設のデイサービス等を利用している為、顔見知りの関係となっている。そのため、日頃から交流も多く、関係作りにも努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の推進、役割や年数に応じた法人研修を開催し、質向上に努めている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して、同業者と交流を持ち、情報・意見交換している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族へ施設見学を勧めたり、入居前に併設のデイサービスや、ショートステイ利用時は、グループホームに招待し雰囲気に慣れて頂くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の育て方や調理方法等、利用者の得意な事を教えて貰い、互いに支え合い合う関係を作っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や家族の希望を日々の生活に反映できるよう努めている。意向の把握が困難な方は、家族から聞き取りを行ったり、職員が生活の中で気づいた本人の行動や表情などから思いを汲み取るよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から本人や家族からのニーズを聞き取り、毎月のスタッフ会議にて検討し、介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1度、介護計画の見直しを行っている。また、状態変化があった場合には、すぐにカンファレンスを開催し、現状に即して介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>買い物や墓参りなど利用者の思いを受け入れ対応している。また、看取り時期には家族との時間を長く持てるよう、利用者と共に宿泊できる部屋を用意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に、本人や家族が希望されるかかりつけ医に入居後も継続して通えるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取り期に入る時には、今後の対応について、家族、医師と共に繰り返し話し合いを持ち、意向や方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内の研修に参加し、理解を深めている。また個人情報に関わる書類も、人目のつかない所に保管されている。		訪問時にほとんどの居室の扉が開いていました。居室は利用者にとってのプライベート空間であり大切な場所であるため、必要に応じた開放、扉が開いていても中が見えにくい工夫をしていただきたい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが食事の準備や茶碗拭き等の役割を持って行えるよう支援している。歌や趣味を楽しめるような雰囲気づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、職員も同じテーブルで持参の弁当を食べ、利用者と会話をして楽しんでいる。また、盛りつけや片付けを自分の役割として、利用者が職員と共に行っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、利用者の希望に応じ、毎日入浴や夜間浴、入浴日を変更したりと利用者のペースに合わせて入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や編み物、絵画など利用者個々の特技や趣味を把握し、実施できる環境をつくることで、楽しみのある生活を支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や地域行事など、希望に添って外出支援している。また、外にいつでも散歩できるように、日中は施設はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加し、理解を深めている。また「身体拘束はしない」という原則を職員間で共有している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に入出入りできるよう鍵を掛けずにいる。見守りの必要な利用者が外に出た時には一緒に出掛けるなど安全面の配慮を行っている。夜間帯は防犯のため施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。消防署や隣接する2つの集落との協力体制も整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士の資格を有している方がいる為、その職員を中心に栄養バランス等の確保に努めている。嗜好調査、残食調査を行いメニュー作成の際に活用している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の研修や申し送りの中で、看護師が中心となって、予防や対応方法について呼びかけている。また、玄関にもアルコールが設置され、外来者への予防策も講じている。		

外部 評価 値	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全居室には光が差し込み、風通りも良く心地良い環境となっている。また、利用者・職員が敷地内に咲く花を摘み取り、リビングに飾ることで、季節感を感じることができる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、馴染みの家具や使用していた物を持参しても良いことを家族へ伝えている。仏壇や写真を飾るなど安心して過ごせるよう支援している。</p>		

 は、重点項目。